

第132回

トラック運送業界の景況感（速報）

令和7年10月～12月期

2025年9月の日銀短観調査によると、大企業製造業の業況判断DIは緩やかに景気の持ち直しが続くなか、前回調査から1ポイント改善し、15となった。

トラック運送業界においては、今期、輸送数量の減少、労働力不足などマイナス要因が作用したものの、補助金拡充による燃料調達価格の下落、運賃料金水準の改善基調を反映し、営業利益、経常利益が改善傾向に転じたことを背景に、景況感は前回▲24.1から▲22.4へ1.7ポイント改善した。

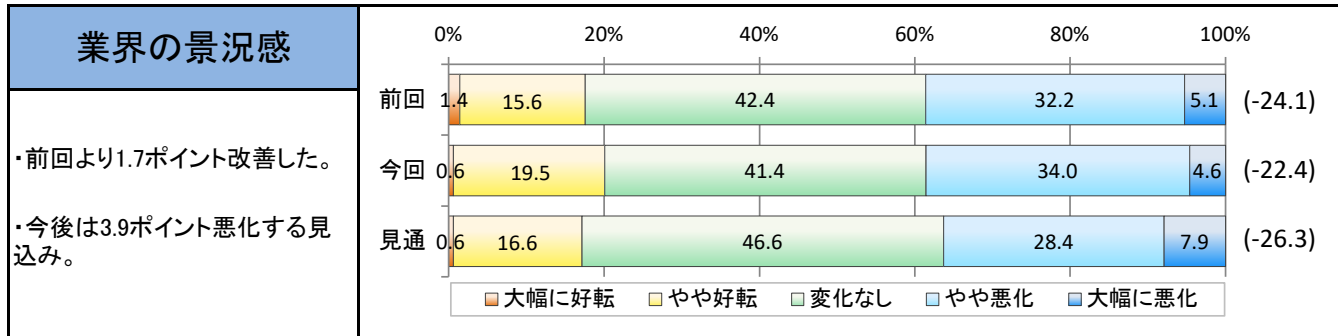
なお、来期の見通しは、物価高や運送原価の上昇等により、景況感は今回▲22.4から▲26.3へ3.9ポイント悪化する見込みである。

令和8年2月16日

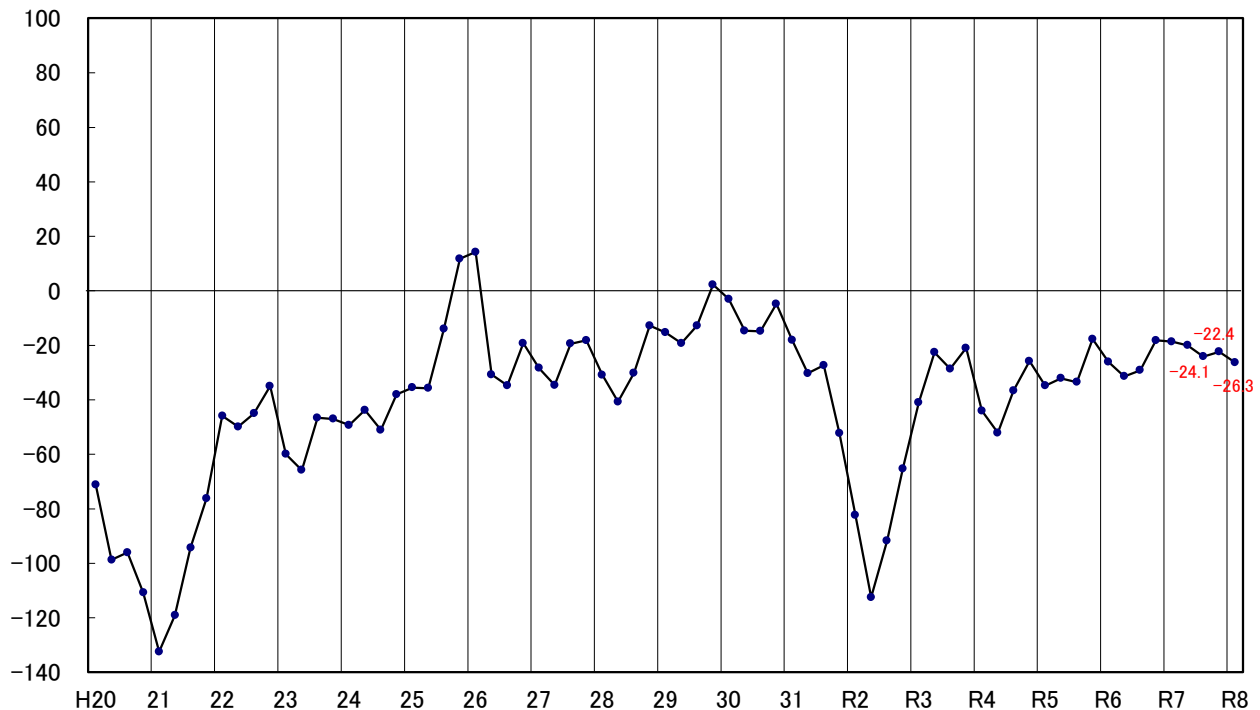
公益社団法人 全日本トラック協会

1 業界の景況感:今回(令和7年10月～12月期)の概況と今後の見通し

| | |
|------------|--|
| 今回の 状況 | ・今期、輸送数量の減少、労働力不足などマイナス要因が作用したものの、補助金拡充による燃料調達価格の下落、運賃料金水準の改善基調を反映し、営業利益、経常利益が改善傾向に転じたことを背景に、景況感は前回▲24.1から▲22.4へ1.7ポイント改善した。 |
| 今後の 見通し | ・来期の見通しは、物価高や運送原価の上昇等により、景況感は今回▲22.4から▲26.3へ3.9ポイント悪化する見込みである。 |



トラック運送業界の景況感(業況判断DI)の推移



(注1) 各グラフ(3段の横棒グラフ)の上段は前回(R7.7月～9月期)の状況、中段は今回(R7.10月～12月期)の状況、下段は今後(R8.1月～3月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比の回答である。

(注2) 各グラフ(3段の横棒グラフ)の構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) 各グラフ(3段の横棒グラフ)右側にあるカッコ内は判断指数。各判断指数は、各設問の回答に対し、「大幅に増加・上昇・好転、労働力不足」は+2、「やや増加・上昇・好転、労働力不足」は+1、「横ばい」は0、「やや減少・低下・悪化、労働力過剰」は-1、「大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰」は-2の点数に置き換え、平均を100倍することにより各判断指数を算出している。

A (設問Aの回答者数) = $a_1 + a_2 + a_3 + a_4 + a_5$ (設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

指標 = $\{(+2 \times a_1) + (+1 \times a_2) + (0 \times a_3) + (-1 \times a_4) + (-2 \times a_5)\} \div A \times 100$

2 共通の概況①: 今回(令和7年10月～12月期)の状況と今後の見通し

| | |
|--------|---|
| 今回の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・実働率は▲13.7(前回▲5.3)と8.4ポイント悪化、実車率は▲7.5(前回▲7.1)と0.4ポイント悪化し、輸送効率は悪化した。 ・運転者の採用動向は▲11.8(前回▲32.0)と20.2ポイント上昇、運転者の雇用動向(労働力の不足感)は89.4(前回95.7)と6.3ポイント低下し、労働力の不足感は弱くなった。 |
| 今後の見通し | <ul style="list-style-type: none"> ・実働率は▲16.1(今回▲13.7)と2.4ポイント悪化、実車率は▲14.9(今回▲7.5)と7.4ポイント悪化する見込みである。 ・運転者の採用動向は▲19.9(今回▲11.8)と8.1ポイント低下し、運転者の雇用動向は97.5(今回89.4)と8.1ポイント上昇し、労働力の不足感は強くなる見込みである。 |

| | |
|-----------------------|---|
| 実働率 | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.4 15.2 64.4 18.9 1.1 (-5.3)</p> <p>今回 0.6 18.0 52.2 25.5 3.7 (-13.7)</p> <p>見通 14.3 58.4 24.2 3.1 (-16.1)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや低下 ■ 大幅に低下</p> |
| 実車率 | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.4 13.7 68.6 12.9 4.3 (-7.1)</p> <p>今回 16.8 62.1 18.0 3.1 (-7.5)</p> <p>見通 13.0 62.7 20.5 3.7 (-14.9)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや低下 ■ 大幅に低下</p> |
| 運転者の採用動向 | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.8 9.4 55.3 26.3 8.3 (-32.0)</p> <p>今回 21.1 51.6 21.7 5.6 (-11.8)</p> <p>見通 13.0 60.2 20.5 6.2 (-19.9)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 変わらない ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p> |
| 運転者の雇用動向 (労働力の不足感) | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 29.1 41.1 26.7 2.7 0.4 (95.7)</p> <p>今回 19.9 51.6 26.7 1.9 (89.4)</p> <p>見通 23.6 52.2 22.4 1.9 (97.5)</p> <p>■ 不足 ■ やや不足 ■ 適当 ■ やや過剰 ■ 過剰</p> |

(注4) 雇用状況については、上段は前回(R7.7月～9月期)の状況、中段は今回(R7.10月～12月期)の状況、下段は今後(R8.1月～3月期)の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を集計している。

3 共通の概況②: 今回(令和7年10月～12月期)の状況と今後の見通し

| | |
|---------------|--|
| 今回の状況 | <ul style="list-style-type: none"> 所定外労働時間は▲26.1(前回▲35.4)と9.3ポイント増加、貨物の再委託(下請運送会社への委託割合)は▲11.2(前回▲18.8)と7.6ポイント増加した。 経常損益は、補助金拡充による燃料調達価格の下落を反映し、▲8.1(前回▲28.3)と20.2ポイント改善した。 |
| 今後の見通し | <ul style="list-style-type: none"> 所定外労働時間は▲24.2(今回▲26.1)と1.9ポイント増加し、貨物の再委託は▲6.8(今回▲11.2)と4.4ポイント増加の見込みである。 経常損益は、物価高や運送原価の上昇等により、▲16.8(今回▲8.1)と8.7ポイント悪化する見込みである。 |

| | |
|---------------------------------|---|
| 所定外労働時間 | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.4 9.3 50.6 33.8 5.9 (-35.4)</p> <p>今回 1.2 26.2 62.1 26.1 4.3 (-26.1)</p> <p>見通し 0.6 66.2 64.0 26.7 2.5 (-24.2)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p> |
| 貨物の再委託 (下請運送会社への委託割合) | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.4 9.8 66.4 17.6 5.9 (-18.8)</p> <p>今回 1.2 17.4 56.5 18.6 6.2 (-11.2)</p> <p>見通し 2.5 14.9 60.2 18.0 4.3 (-6.8)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 変わらない ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p> |
| 経常損益 | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.8 19.7 35.4 38.6 5.5 (-28.3)</p> <p>今回 29.2 39.8 24.8 6.2 (-8.1)</p> <p>見通し 0.6 18.6 49.1 26.7 5.0 (-16.8)</p> <p>■ 大幅に好転 ■ やや好転 ■ 変化なし ■ やや悪化 ■ 大幅に悪化</p> |

【調査の概要】

平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第132回調査は、令和8年1月5日に、モニターに対して調査開始、令和8年1月31日回収分までを集計。

| 特積 | 一般 | 回答事業者全体 |
|----|-----|---------|
| 79 | 421 | 483 |

4 一般貨物:今回(令和7年10月~12月期)の状況と今後の見通し

| | |
|--------|---|
| 今回の状況 | <ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、輸送数量は▲10.6(前回▲14.9)と4.3ポイント改善、運賃・料金の水準は41.7(前回15.9)と25.8ポイント改善したことから、営業収入(売上高)は5.3(前回▲11.3)と16.6ポイント改善した。 営業利益は補助金拡充による燃料調達価格の下落を反映し、▲5.3(前回▲37.9)と32.6ポイント改善した。 |
| 今後の見通し | <ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、輸送数量は▲16.6(今回▲10.6)と6.0ポイント悪化、運賃・料金の水準は29.8(今回41.7)と11.9ポイント悪化することから、営業収入(売上高)は▲6.6(今回5.3)と▲11.9ポイント悪化する見込みである。 営業利益は、来期の事業環境の不透明感を反映し、▲11.3(今回▲5.3)と6.0ポイント悪化する見込みである。 |

| | |
|-----------|---|
| 輸送数量 | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 1.7 14.5 53.9 27.0 2.9 (-14.9)</p> <p>今回 25.8 43.0 25.8 5.3 (-10.6)</p> <p>見通 20.5 46.4 29.1 4.0 (-16.6)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p> |
| 運賃・料金の水準 | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.4 33.2 52.7 9.3 4.4 (15.9)</p> <p>今回 47.0 48.3 4.0 0.7 (41.7)</p> <p>見通 0.7 36.4 56.3 5.3 1.3 (29.8)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや下落 ■ 大幅に下落</p> |
| 営業収入(売上高) | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.4 30.4 28.3 39.1 1.7 (-11.3)</p> <p>今回 2.0 33.1 39.7 18.5 6.6 (5.3)</p> <p>見通 0.7 25.2 45.7 23.8 4.6 (-6.6)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p> |
| 営業利益 | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.3 14.3 41.0 35.8 8.5 (-37.9)</p> <p>今回 1.3 28.5 39.7 24.5 6.0 (-5.3)</p> <p>見通 0.7 21.2 49.0 24.5 4.6 (-11.3)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p> |

5 特積貨物:今回(令和7年10月～12月期)の状況と今後の見通し

| | |
|---------------|---|
| 今回の状況 | <ul style="list-style-type: none"> 特積貨物では、輸送数量は▲28.0(前回12.8)と40.8ポイント悪化したものの、運賃・料金の水準は36.0(前回22.1)と13.9ポイント改善し、営業収入(売上高)は4.0(前回10.5)と6.5ポイント悪化した。 営業利益は▲12.0(前回▲2.4)と9.6ポイント悪化した。 |
| 今後の見通し | <ul style="list-style-type: none"> 特積貨物では、運賃・料金の水準は48.0(今回36.0)と12.0ポイント改善するものの、輸送数量は▲44.0(今回▲28.0)と16.0ポイント悪化し、営業収入(売上高)は▲8.0(今回4.0)と12.0ポイント悪化する見込みである。 営業利益は▲24.0(今回▲12.0)と12.0ポイント悪化する見込みである。 |

| | |
|------------------|--|
| 輸送数量 | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 3.8 15.4 71.8 7.7 1.3 (12.8)</p> <p>今回 12.0 52.0 32.0 4.0 (-28.0)</p> <p>見通 8.0 52.0 28.0 12.0 (-44.0)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p> |
| 運賃・料金の水準 | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 1.2 29.1 60.5 9.3 (22.1)</p> <p>今回 40.0 56.0 4.0 (36.0)</p> <p>見通 52.0 44.0 4.0 (48.0)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや下落 ■ 大幅に下落</p> |
| 営業収入(売上高) | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 3.5 31.6 38.6 24.6 1.8 (10.5)</p> <p>今回 28.0 52.0 16.0 4.0 (4.0)</p> <p>見通 28.0 44.0 20.0 8.0 (-8.0)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p> |
| 営業利益 | <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 1.2 27.1 41.2 29.4 1.2 (-2.4)</p> <p>今回 20.0 56.0 16.0 8.0 (-12.0)</p> <p>見通 20.0 48.0 20.0 12.0 (-24.0)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p> |

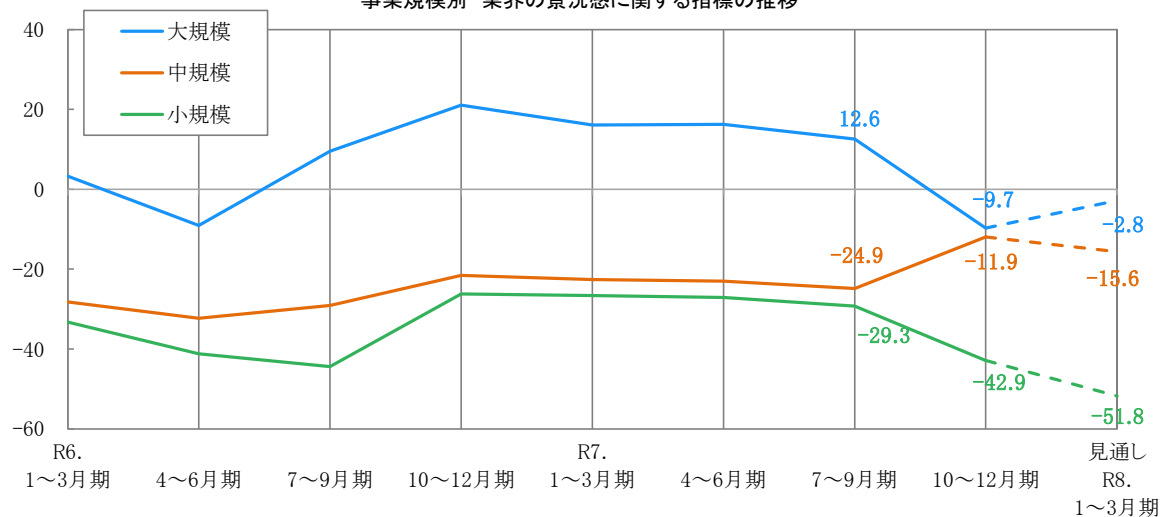
※特積貨物の指数は、「宅配貨物」及び「宅配以外の貨物」の各指数を統合

6 事業者特性格別の特徴①：規模別・品目別 業界の景況感

規模 (注5)

- ・大規模事業者：▲9.7(前回12.6)と22.3ポイント悪化、今後は▲2.8と6.9ポイント改善見通し。
- ・中規模事業者：▲11.9(前回▲24.9)と13.0ポイント改善、今後は▲15.6と3.7ポイント悪化見通し。
- ・小規模事業者：▲42.9(前回▲29.3)と13.6ポイント悪化、今後は▲51.8と8.9ポイント悪化見通し。

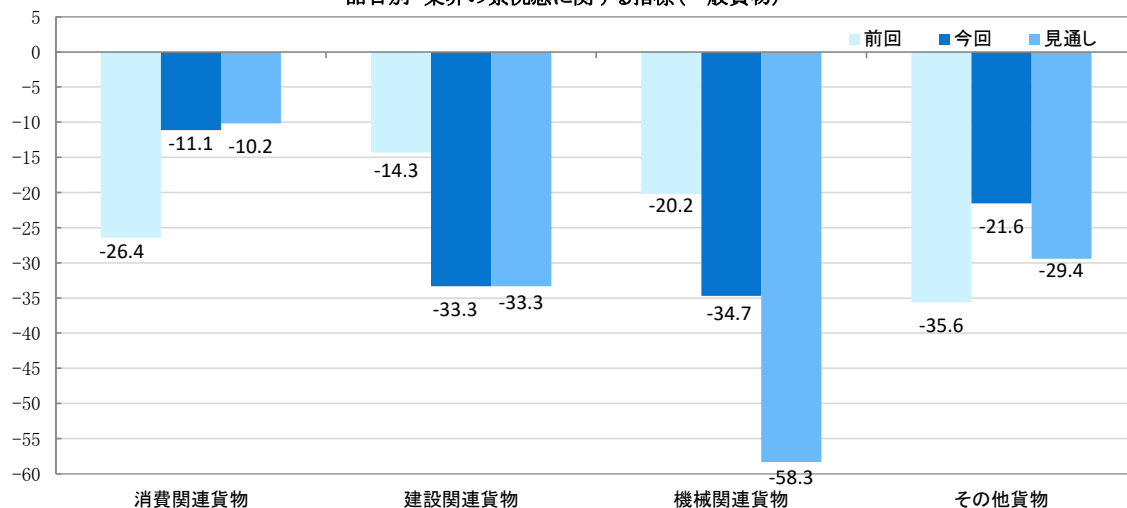
事業規模別 業界の景況感に関する指標の推移



品目 (注6)

- ・消費関連貨物：▲11.1(前回▲26.4)と15.3ポイント改善、今後は▲10.2と0.9ポイント改善見通し。
- ・建設関連貨物：▲33.3(前回▲14.3)と19.0ポイント悪化、今後は▲33.3と横ばい見通し。
- ・機械関連貨物：▲34.7(前回▲20.2)と14.5ポイント悪化、今後は▲58.3と23.6ポイント悪化見通し。
- ・その他貨物：▲21.6(前回▲35.6)と14.0ポイント改善、今後は▲29.4と7.8ポイント悪化見通し。

品目別 業界の景況感に関する指標(一般貨物)



(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上

中規模事業者：21両以上100両以下

小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

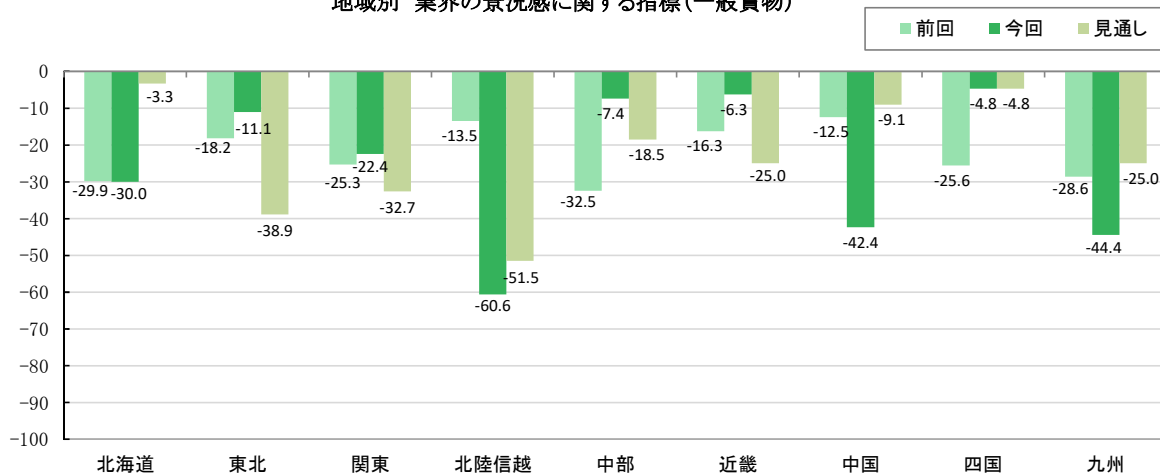
品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

7 事業者特性格別の特徴②:地域別・事業形態別 業界の景況感等

地域 (注7)

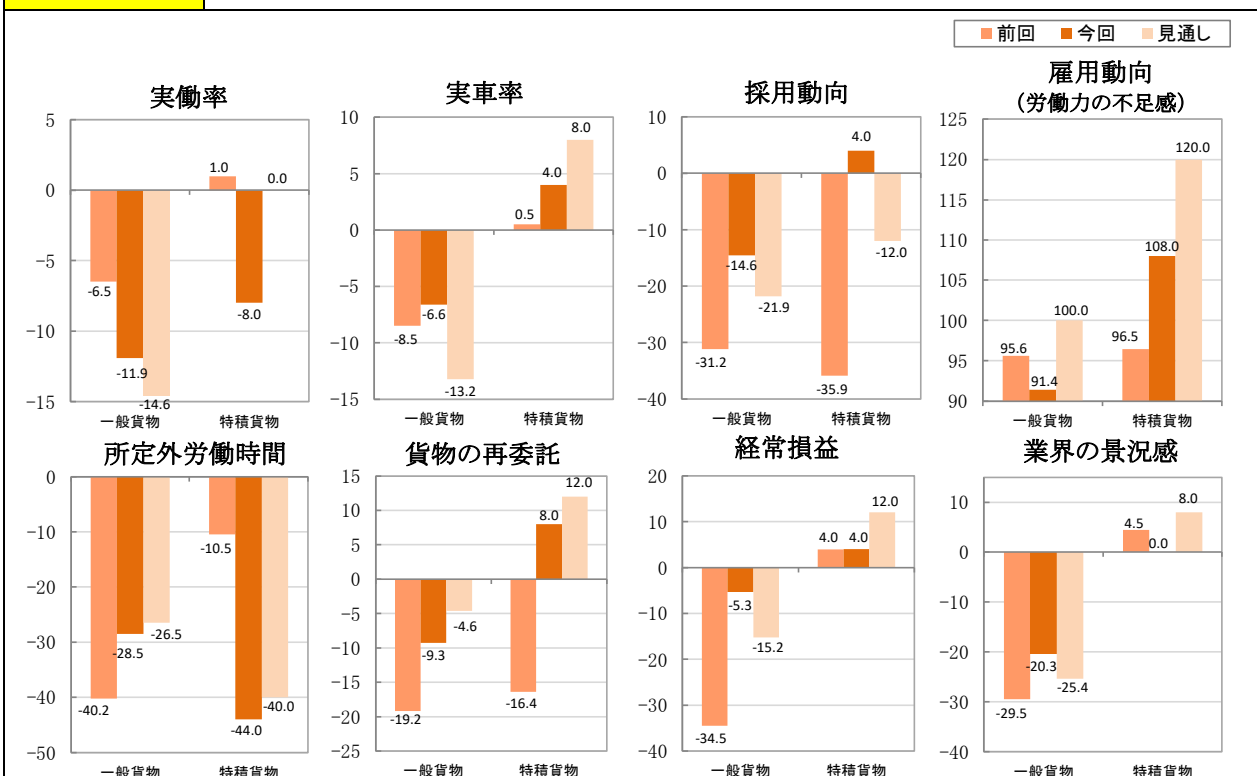
- ・ 今期改善したのは、東北、関東、中部、近畿、四国であり、悪化は北海道、北陸信越、中国、九州である
- ・ 来期見通しは、北海道、北陸信越、中国、九州が回復し、四国は横ばい、東北、関東、中部、近畿が悪化の見通しである。

地域別 業界の景況感に関する指標(一般貨物)



事業形態別 (注8)

- ・ 雇用動向: 一般貨物、特積貨物ともに、深刻な人材不足を反映し、労働力の不足感が強くなる見通しである。
- ・ 経常損益: 一般貨物では補助金により燃料調達価格が下落し、今期の経常損益は回復した。
- ・ 業界の景況感: 一般貨物は経常損益の改善を織り込み、▲20.3と9.2ポイント改善、特積貨物は0.0と4.5ポイント悪化したが、来期は改善の見通しである。

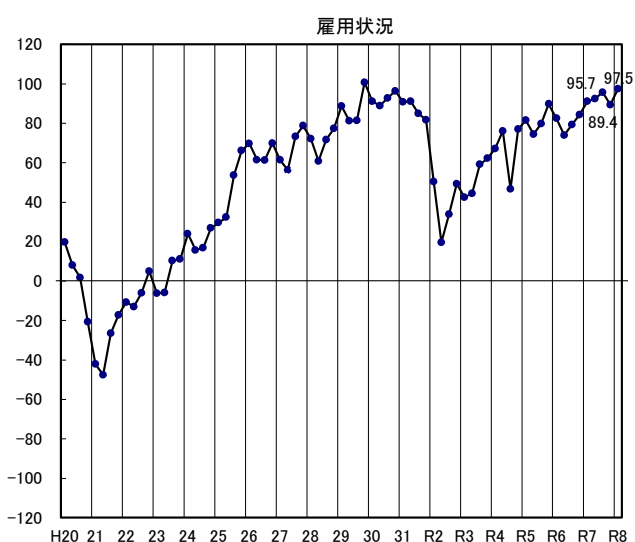
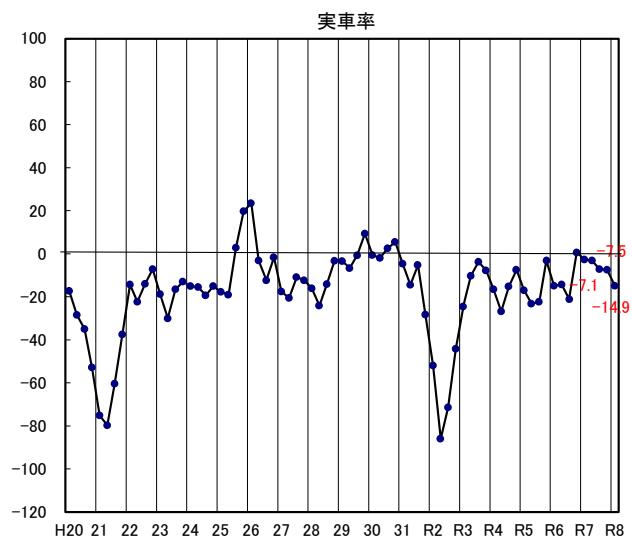
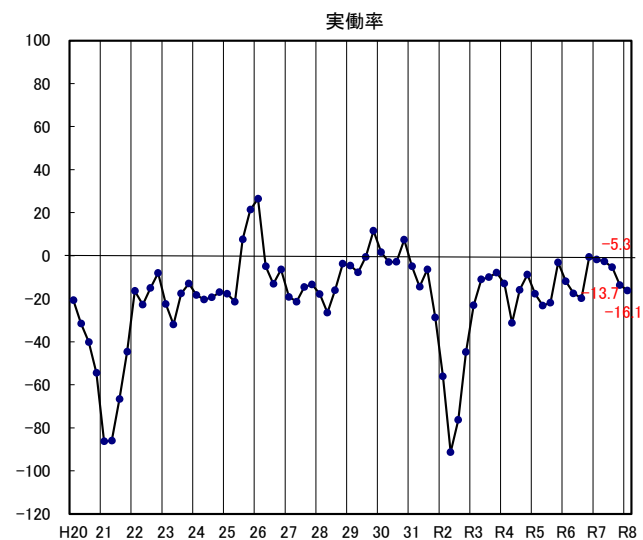


(注7) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注8) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「特積貨物」である。

8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第4四半期見通し)

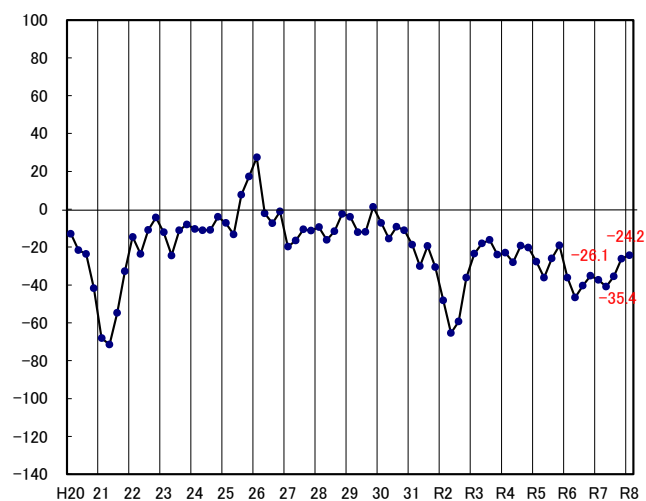
共通の概況①



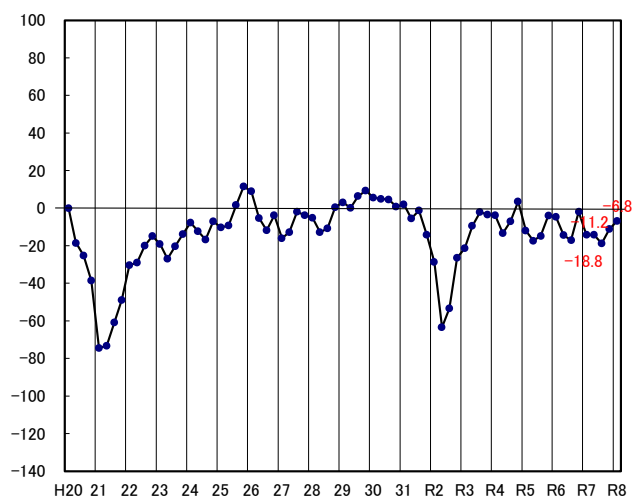
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第4四半期見通し)

共通の概況②

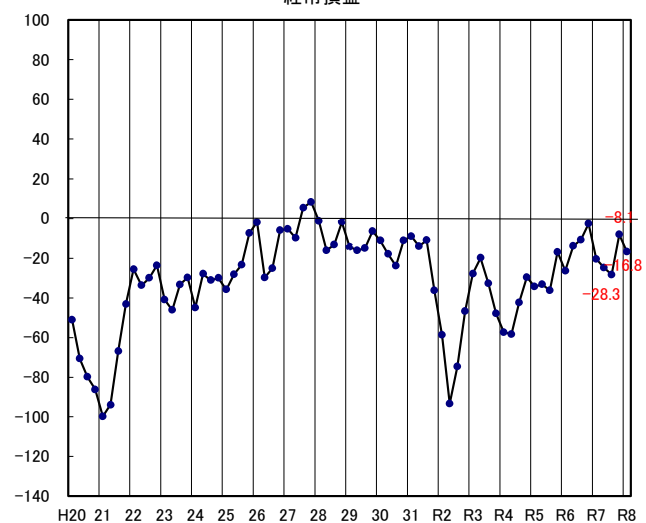
所定外労働時間



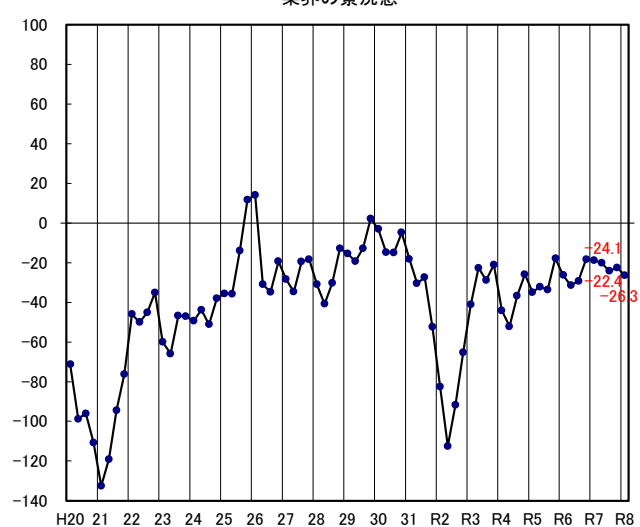
貨物の再委託



経常損益

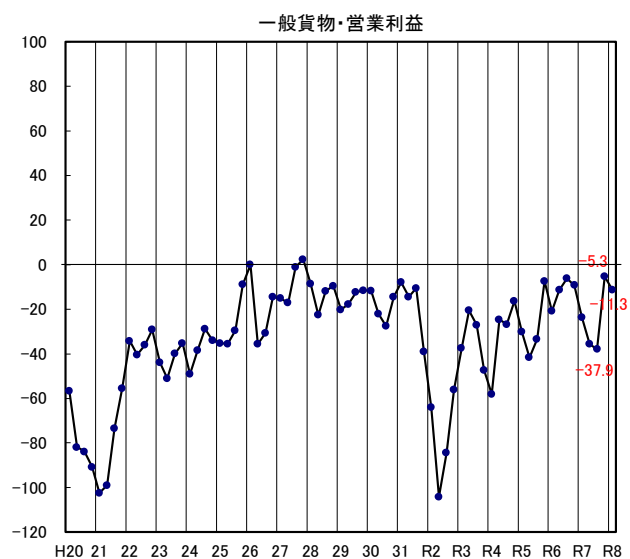
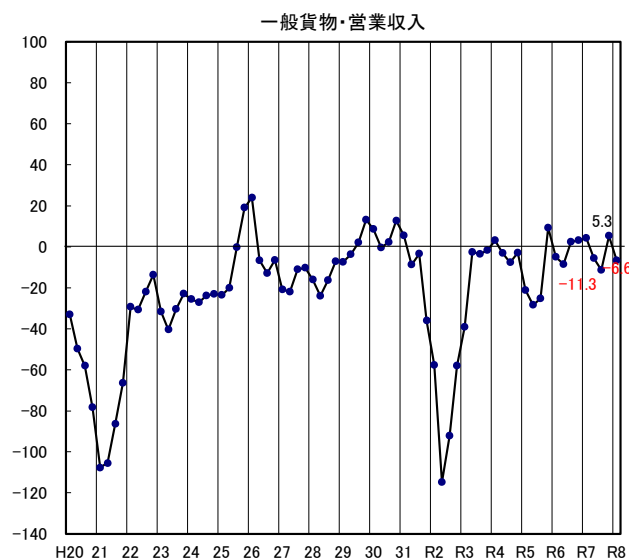
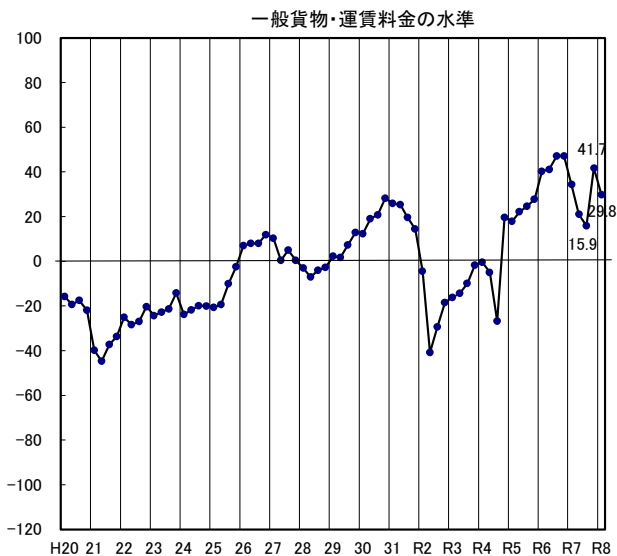
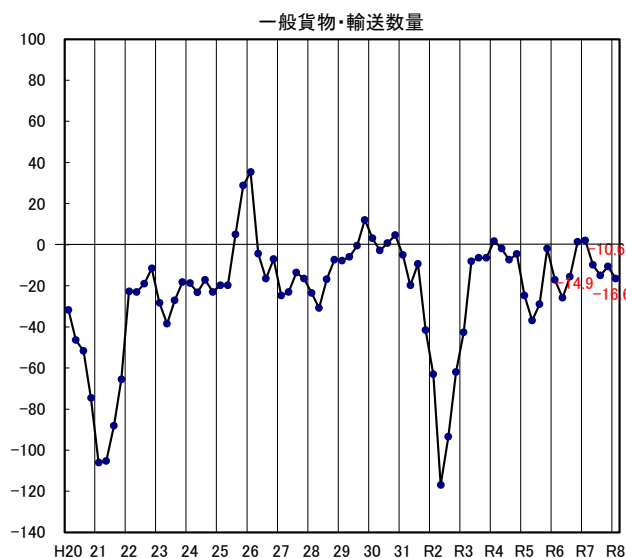


業界の景況感



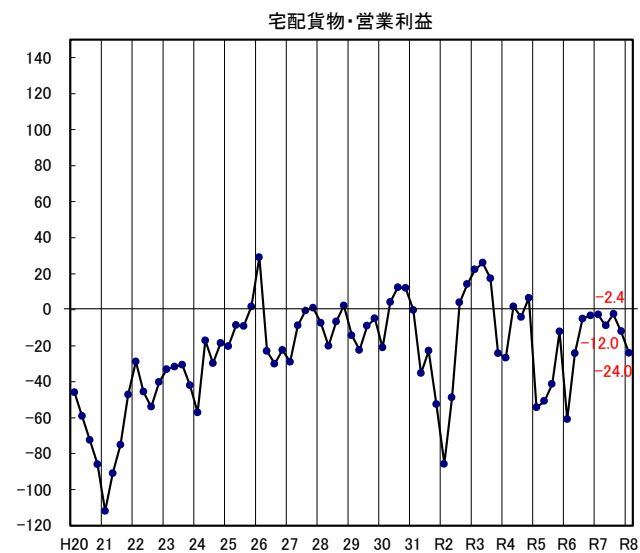
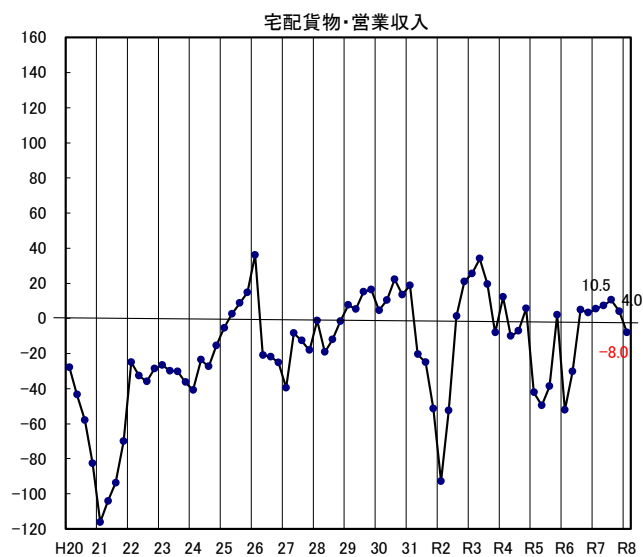
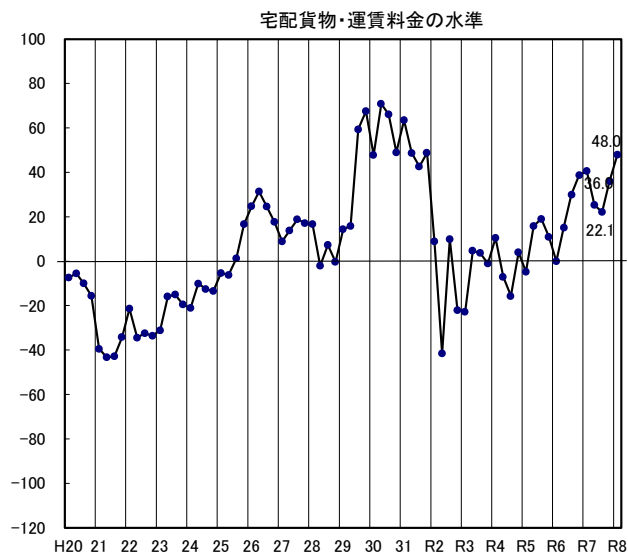
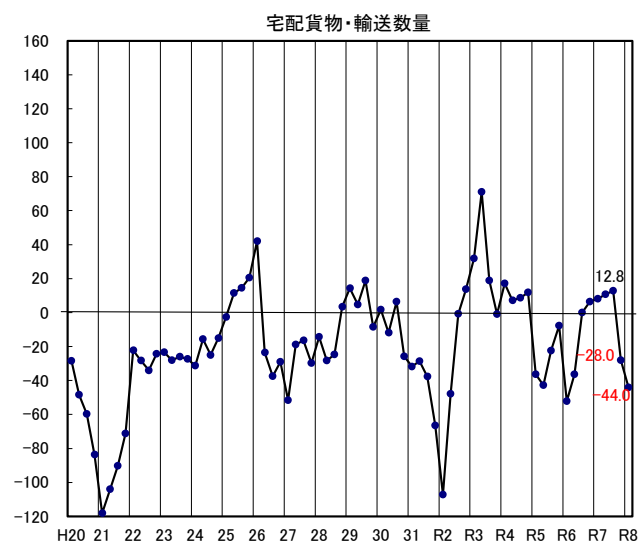
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第4四半期見通し)

一般貨物



8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第4半期見通し)

特積貨物



※ 特積貨物として「宅配貨物」及び「宅配以外の貨物」を統合